

令和2年度 基本評価調書

施策名	滞在交流型観光地づくりの推進	所管部局	経済部	作成責任者	観光振興監 大内 隆寛	施策コード	05 — 04
総合評価	効果的な取組を検討して引き続き推進	照会先	観光局 観光企画 (内線：26-592)	関係課	観光局	政策体系コード	2(6)A

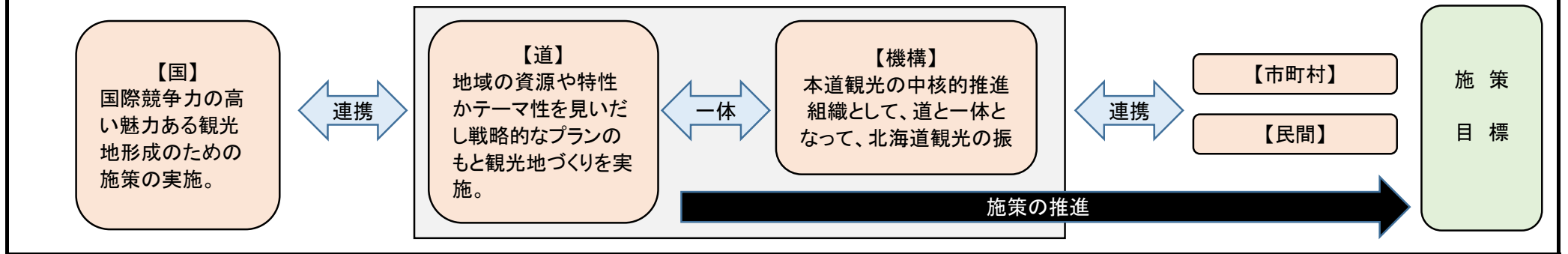
Plan (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式1)

1 目標等の設定

現状と課題	施策目標	施策の予算額(千円)	
<p>・本道の観光産業のGDPは、他産業と比較すると、金融・保険業や農業をしのぐ規模となり、観光消費に伴う経済波及効果は、観光関連の事業者だけではなく、農林水産業や製造業など幅広い産業に及ぶなど裾野が広いことから、道内経済を活性化していくためには、観光客の拡大を地域のビジネスチャンスとしてとらえ、「観光で稼ぐ」という意識を幅広く浸透させ、観光事業者のみならず農林水産業や商工業など、地域の多様な関係者の参画を促進していく必要がある。</p> <p>・観光客が特定の時期や地域に偏る傾向があることから、地域ならではの観光資源の発掘・磨き上げや地域の様々な関係者を巻き込んだ一体的な観光地づくりを進めるとともに、急増する外国人来道者に対応するための多言語に対応できる人材など観光業を支える人材の確保・定着ならびに情報案内機能の充実や受入側のホスピタリティの向上等に取り組む必要がある。また、周遊観光の促進など道内全域への観光客の誘導や年間を通じた安定的な誘客を図っていくため、地域の様々な関係者を巻き込んだ一体的な観光地づくりを進めるほか、滞在型観光の促進のための広域観光ルート形成・促進や、道央圏から他の圏域への誘客促進に向けた空港や鉄道の駅などの交通拠点と観光地との間を結びつける二次交通の整備などに取り組む必要がある。</p> <p>・これまで本道観光を支えてきたかけがえのない自然環境の保全に努めながら、安全・安心に配慮した受入環境を整え、北海道の魅力ある観光資源を活用した滞在型観光地づくりを進めることにより、「世界が憧れる観光立国北海道」をめざしていく。</p>	<p>【観光地づくり】</p> <p>・地域の多様な関係者の参画により観光客の増加を観光消費の拡大につなげ、その消費を地域で循環させることで、さらに新たな取組へとつなげ、魅力ある「観光地づくり」を進めることが重要。この取組により、地域の「稼ぐ観光」を実現するとともに、地域創生や観光のリーディング産業化を目指し、観光施策による効果を地域経済の活性化に着実に繋げていく。</p> <p>・地域の観光資源の発掘・磨き上げによる新たな魅力ある観光商品づくりはもとより、新たなツーリズムや一年を通じて地域に滞在しながら楽しむことができる観光メニューづくり等に取り組み、自然環境など地域の資源を活かした滞在交流型の観光地づくりを推進する。</p> <p>(北海道観光のくにづくり行動計画より)</p>	H30	745,921
		R1	827,060
		R2	999,980

項目	政策体系	国の役割・取組等	道の役割・取組等	市町村の役割・取組等	民間等の役割・取組等
【観光地づくり】	2(6)A	・国際競争力の高い魅力ある観光地の形成を図るため、関係者と連携し、必要な施策を講ずる。	・地域の資源や特性からテーマ性などを見だし、戦略的なプランのもとに観光地づくりを進めていく。	【札幌市】 ・道内の交通拠点である札幌駅において観光案内所の運営を道と共同で行うとともに、北海道観光の中核都市として道と密に連携し取組を進める。 【その他市町村】 ・観光振興の主体として、地域の資源を活かした多様な観光商品づくり、ホスピタリティの向上や人材育成に取り組むとともに、様々な産業の連携・協力が円滑に進むよう、調整に努めていく。	【(公社)北海道観光振興機構】 ・本道観光の中核的組織として、道と一体となって、民間組織としての感覚や発想を生かしつつ、機動性と専門性を発揮し、北海道観光の振興に向けた取組を積極的に展開していく。 【その他民間】 ・観光客のニーズに応えられる質の高いサービスの提供や交通ネットワークの利便性向上等、旅行形態の変化や観光ニーズの多様化に配慮して事業活動を拡げる。

施策のイメージ



令和2年度 基本評価調書

施策名	滞在交流型観光地づくりの推進	施策コード	05 — 04
-----	----------------	-------	---------

Plan (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式1)	Do & Check 施策評価
--------------------------------	-----------------

今年度の取組

1-2 取組の結果

政策体系及び関連計画等	今年度の取組	実績と成果、新型コロナウイルス感染症の影響等	道民ニーズを踏まえた対応
2(6)A 【創生】 A3311 A3312 A3313 A3314 A3321 A3325 A3331 A3332 【強靱化】 B1731 B1732 【公約】 C0072 C0120 C0121 C0122 C0124 C0125 C0126 C0127 C0128 C0130 C0131 C0146	<p>【観光地づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「アドベンチャートラベルワールドサミット2021」開催に向けた取組や、ガイド認証制度の検討、北海道アウトドア資格制度の運営、道内外に向けた情報発信等を行う。 ○重点市場・対象に関するマーケティング調査を行うとともに、広域連携DMOに認定されている北海道観光振興機構のマーケティング力強化を図る。 <p>○民族共生象徴空間(愛称:ウポポイ)の一般公開に向け、道内外の気運醸成を図るとともに、国内外から誘客促進を図る。</p> <p>○地域が行う新たな商品づくり等の取組を支援し、地域経済の活性化を図る。</p> <p>○来道観光客の夜間消費の拡大を図るためのワークショップ、長期滞在在化を図るための商品開発・販売や滞在モデルプランの策定・検証、二次交通の利便性の向上、サイクルツーリズムを推進するための輸送方法の検証や周遊拠点の整備支援等、多様化するニーズに対応するための各種取組を実施。</p> <p>○住宅宿泊事業法の適正な執行、事業者と小規模宿泊施設とのマッチングなどによる滞在型観光の推進に取り組む。</p> <p>○札幌市との連携により北海道さっぽろ「食と観光」情報館を運営する。</p> <p>○誰もが安全・安心に道内旅行を楽しめる環境を整備する。</p> <p>○人手不足が課題となっている観光産業の人材確保や、従業員等の人材育成を行い受入体制を整備する。</p> <p>○自然体験を核とした体験型観光の受入体制を整備するとともに、北海道のブランド力向上を図る。</p> <p>○統合型リゾート(IR)については、次回の区域認定を見据え、誘致への挑戦ができるよう、所要の準備に取り組みます。</p>	<p>○「アドベンチャートラベル・ワールドサミット2021」の誘致に向けて、トップセールスや国内関係者への協力依頼、ヒアリング等を実施し、主催団体から開催内定を受けた。</p> <p>○広域連携DMOの登録を受けた観光振興機構のマーケティング力の強化を図るため、デジタルマーケティング調査やホームページのデータ分析等を実施。</p> <p>《新型コロナウイルス感染症の影響等》</p> <p>○ウポポイのオープンを道内観光における誘客の一要素として、国内外におけるプロモーションを行うこととしていたが、各種プロモーションは感染症収束後に実施予定で、道内→国内→海外と段階を踏んで実施。</p> <p>○地域の魅力ある観光資源を活用した旅行商品開発や受入体制整備の取組を支援。68団体が事業に取り組んだ。</p> <p>○複数の市町村を含む広域的な連携のもと、食や景観など地域の多様な観光資源を活用した魅力ある観光地づくりや観光周遊ルートの形成など滞在型観光への取組を支援。7地域が事業に取り組んだ。</p> <p>○サイクリング周遊拠点における施設の整備不足、情報の不足、公共交通機関等への自転車の持ち込みの手間や、イベントでのスタッフ不足など様々な課題に対応した受入体制の整備に向けサイクルツアーの検証やモデル地区における拠点整備等を実施した。</p> <p>《新型コロナウイルス感染症の影響等》</p> <p>○夜間消費拡大に関するワークショップ等は、感染症の影響により事業実施時期未定。</p> <p>○民泊事業者のサービスの質の向上などを目的としたセミナーを開催し、自然や食などを組み合わせた北海道らしい民泊を創出することで滞在型観光の推進を図る。</p> <p>○札幌市との連携により、北海道「食と観光」情報館を運営。案内所利用者数1,508名(R2.6月末現在)</p> <p>○バリアフリー旅行商品の開発やバリアフリー対応ノウハウ習得セミナーを実施。セミナー受講者153名。</p> <p>○観光関連業者の従業員、通訳案内士等の人材育成を行うことで、外国人観光客の受入体制を整備。研修受講者239名。</p> <p>○自然体験を核とした体験型観光の受入体制を整備するとともに、体験型観光商談会の</p>	<p>○「令和元年度北海道来訪者満足度調査」によると、道内観光客からは、「観光地の魅力づくり・接客サービスの向上」や「観光地をもっとPRすべき」などといった意見が多く寄せられた。これらの意見を踏まえた事業執行にするとともに、今後の施策に反映させていく。</p>

開催による商品化を促進するなど、アウトドアの好適地である北海道ブランド力向上を図り、滞在型観光を推進した。

○IR候補地の特定に向けた検討及び北海道らしいIRコンセプトの構築に取り組んだ。

【国等要望・提案状況】

○アドベンチャートラベル・ワールドサミット2021開催に係る支援について要望。(R2.7)

○滞在コンテンツの充実及び広域観光周遊促進を促す環境整備等の地域が行う多様な取組に対応した柔軟で継続的な財政支援を要望。(R2.7)

○観光産業に従事する者の育成・確保に係る取組に対する支援や、観光関連施設における非常用電源の確保など災害発生時の観光客の安全・安心を守る体制の整備に係る地域の取組に対して支援を充実・強化することを要望。(R2.7)

○観光地、交通拠点等におけるWi-Fiを含む通信環境の整備やICT技術を活用したアプリケーションの導入など、観光客等が必要な情報を適切に入手できる環境の構築に向けた取組に対する支援の充実を要望。(R2.7)

2 連携の状況

2-2 連携の取組状況

連携種別 (政策体系)	連携内容	連携先		取組の実績と成果、新型コロナウイルス感染症の影響
		施策コード	関係部・関係課	
施策・部局 2(6)A	新幹線や海外との航路・航空路の拡充により期待される国内外からの誘客を一層促進するため、新千歳空港の国際拠点空港化の促進をはじめ、鉄道、航空路、航路といった基幹的な交通ネットワークや交通基盤の充実を図る。 クルーズ客船の寄港誘致に向け、庁内関係部局との連携により取組を推進する。	0204	総合政策部交通政策局・航空局	○「北海道交通施策総合指針」に基づき、庁内関係部局と情報共有を図りながら連携。 ○総合政策部主管の庁内会議「クルーズ振興に関する連絡会議」において情報交換や意見交換を実施。 《新型コロナウイルス感染症の影響等》 ○各種プロモーションは、感染症収束後に「道内→国内→海外」と段階を踏んで実施予定。
施策・部局 2(6)A	都市住民との交流促進により農村の地域活性化を図り、グリーン・ツーリズムを推進するため、「北海道グリーン・ツーリズム推進庁内連絡会議」を設置。道におけるグリーン・ツーリズム推進施策の円滑な実施に資するため、庁内各部や他地域との連携、様々な主体との協力により、四季を通じた豊富な観光資源を活用し、ゆっくりと滞在して四季それぞれの良さを堪能できる、多様な楽しみ方を提供する魅力的な観光地づくりを進める。	0605	農政部農村設計課	○観光局、農政部が連携し、グリーンツーリズムに関する情報収集及びHPでの情報発信を実施。
施策・部局 2(6)A	「食と観光」を中心とした産業間連携を一層強化し、力強い経済を確立するため、「食と観光」の促進のための連携会議を設置し、「食と観光」が連携した施策を効果的に推進する。	0501	経済部食関連産業室	○食分野と連携し、道産品の消費回復と感染症収束後の道内観光需要下支えを目的とした事業を実施。
施策・部局 2(6)A	住宅宿泊事業法に関連する法令等を所管する関係行政機関と連携しながら業務を推進する必要があるため、庁内関係部局や関係行政機関が参画する「民泊の適正運営確保に関する連絡会議」や庁内横断の「民泊の適正運営確保に関する庁内連絡会議」を主催するなど、住宅宿泊事業の届出に関する法令等の情報交換や、苦情・相談等に対応するための庁内連携体制を推進する。	0409	保健福祉部健康安全局食品衛生課	○「住宅宿泊事業法」に基づき、届出受理事務及び指導監督事務を、庁内関係部局や関係行政機関と連携して実施。
		0801	建設部住宅局建設指導課	
		0605	農政部農村振興局農村設計課	
		-	総務部危機対策局危機対策課	
地域・民間	本道観光の中核的推進組織として、道と一体となって、民間組織としての感覚や発想を生かしつつ、機動性と専門性を発揮し、北海道観光の振興に向けた各種施策を積極的に展開している。	-	(公社)北海道観光振興機構	○北海道観光振興機構と連携して受入体制整備等の事業を展開。民間組織としての感覚や発想を生かすことで効果的な事業となった。 《新型コロナウイルス感染症の影響等》 ○各種プロモーションは、感染症収束後に「道内→国内→海外」と段階を踏んで実施予定。
地域・民間	札幌市と共同で、札幌駅西コンコースにおいて「北海道さっぽろ「食と観光」情報館」を、東京・有楽町において「どさんこ旅サロン」を設置し、旅行相談や観光情報の提供を行っている。	-	札幌市	○札幌市と共同で、札幌駅西コンコースの「北海道さっぽろ「食と観光」の情報館」内にある「北海道さっぽろ観光案内所」を運営し、来道観光客の相談対応を行った。(案内所利用者数:1,508名(R2.6月末現在)) 《新型コロナウイルス感染症の影響等》 ○「どさんこ旅サロン」は、新型コロナウイルスの影響を受け、3月上旬から休館していたが、6月15日より通常営業を再開。

令和2年度 基本評価調書

施策名	滞在交流型観光地づくりの推進	施策コード	05 - 04
-----	----------------	-------	---------

Plan (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式1)

Do & Check 施策評価

3 成果指標の設定

(H:平成、R:令和、大文字は年度、小文字は暦年)

3-2 成果指標の達成度合

主①	指標名	目標の基準		今年度の目標		最終目標		評価年度	H29	H30	R1	達成度合の分析ほか
		基準年度	H22	年度	R2	最終年度	R7	達成度合	-	-	B	
観光消費額(道内容1人当たり) 【指標の説明】 道内、国内、海外からの観光客が道内での観光1回に消費した平均額(1人当たり) 【アウトカム指標】 北海道観光のくにつくり行動計画に基づき、観光のリーディング産業化を目指す上で、観光消費額(道内容1人当たり)を図る指標として設定。	基準値	13,271	目標値	14,000	最終目標値	15,000	年度	R1	R2	進捗率	【内的要因】 ・魅力ある観光地づくりなど消費額増加のための取組の成果が現れていると考えられる。 【外的要因】 特になし	
	根拠計画		政策体系	増減方向	達成率の算式		目標値	13,927	14,000	15,000		
	北海道総合計画		2(6)A	増加	(実績値/目標値)×100		実績値	13,432	-	14,214		
							達成率	96.4%	-	94.8%		
主②	指標名	目標の基準		今年度の目標		最終目標		評価年度	H29	H30	R1	達成度合の分析ほか
		基準年度	H22	年度	R2	最終年度	R7	達成度合	-	-	B	
観光消費額(道外客1人当たり) 【指標の説明】 道内、国内、海外からの観光客が道内での観光1回に消費した平均額(1人当たり) 【アウトカム指標】 北海道観光のくにつくり行動計画に基づき、観光のリーディング産業化を目指す上で、観光消費額(道外客1人当たり)を図る指標として設定。	基準値	69,670	目標値	76,000	最終目標値	79,000	年度	R1	R2	進捗率	【内的要因】 ・前回調査時(H27)から微減となったが、達成率は96.1%と順調に推移していると考えられる。 【外的要因】 特になし	
	根拠計画		政策体系	増減方向	達成率の算式		目標値	75,268	76,000	79,000		
	北海道総合計画		2(6)A	増加	(実績値/目標値)×100		実績値	72,316	-	72,316		
							達成率	96.1%	-	91.5%		

主③	指標名	目標の基準		今年度の目標		最終目標		評価年度	H29	H30	R1	達成度合の分析ほか
		基準年度	H22	年度	R2	最終年度	R7	達成度合	—	—	C	
観光消費額(外国人1人当たり)		基準年度	H22	年度	R2	最終年度	R7	達成度合	—	—	C	【内的要因】 特になし
		基準値	122,128	目標値	200,000	最終目標値	209,000	年度	R1	R2	進捗率	
【指標の説明】 道内、国内、海外からの観光客が道内での観光1回に消費した平均額(1人当たり) 【アウトカム指標】 北海道観光のくにつくり行動計画に基づき、観光のリーディング産業化を目指す上で、観光消費額(道外客1人当たり)を図る指標として設定。		根拠計画		政策体系	増減方向	達成率の算式		目標値	174,251	200,000	209,000	【外的要因】 ・前回調査時(H27)から減少しているが、中国人観光客による爆買いが落ち着いたことなどが一要因であると考えられる。
北海道総合計画		2(6)A	増加	(実績値/目標値)×100		実績値	143,293	—	143,293			
						達成率	82.2%	—	68.6%			

関①	指標名	目標の基準		今年度の目標		最終目標		評価年度	H28	H29	H30	達成度合の分析ほか
		基準年度	H30	年度	R2	最終年度	R6	達成度合	B	D	C	
宿泊延べ数(万人泊)		基準年度	H30	年度	R2	最終年度	R6	達成度合	B	D	C	【内的要因】 ・宿泊客延べ数は、前年度比+1.5%、+58万人泊となったが、新たな行動計画の策定による宿泊延べ数の目標再設定(+700万人泊)により、達成率は88.4%となった。
		基準値	3,781	目標値	4,700	最終目標値	4,700以上	年度	H30	R1	進捗率	
【指標の説明】 宿泊客の延べ人数(国内及び外国人) 【アウトプット指標】 北海道観光のくにつくり行動計画に基づき、観光のリーディング産業化を目指す上で、宿泊延べ数を図る指標として設定。		根拠計画		政策体系	増減方向	達成率の算式		目標値	4,276	4,488	4,700	【外的要因】 ・外的要因としては胆振東部地震の影響などが考えられる。
北海道創生総合戦略		2(6)A	増加	(実績値/目標値)×100		実績値	3,781	—	3,781.0			
						達成率	88.4%	—	80.4%			

● 本施策に成果指標を設定できない理由								● 達成度合について					
								達成度合	A	B	C	D	—

令和2年度 基本評価調書

施策名	滞在交流型観光地づくりの推進	施策コード	05	—	04
-----	----------------	-------	----	---	----

Plan (目標管理型行政運営システム実施要領別紙様式1)

4 事務事業の設定

整理番号	政策体系	事務事業名	事務事業概要	課・局室名	前年度からの繰越事業費(千円)	令和2年度					フルコスト(千円)
						事業費(千円)	うち一般財源	本庁	出先機関	人工計	
0301	2(6)A	アドベンチャートラベルワールドサミット開催推進費	・アドベンチャートラベルワールドサミット2021の北海道開催に向け、プロモーション活動や開催準備などの取組を実施。	観光局	0	31,453	31,453	7.0	0.0	7.0	86,893
0302	2(6)A	民族共生象徴空間誘客促進・地域連携事業費(創生交付金)	・「民族共生象徴空間」開設を機運として、アイヌ文化への理解促進及び滞在交流型観光地づくりを推進する。	観光局	0	72,522	36,261	0.3	0.0	0.3	74,898
0303	2(6)A	地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業費	・地域経済の活性化を図るため、地域の観光協会等が実施する新たな商品づくり等の取組に対して支援を実施。	観光局	0	176,410	176,410	0.3	0.0	0.3	178,786
0304	2(6)A	アドベンチャートラベル受入整備・ブランド向上事業費	・道内への誘客促進を図るため、道内外に向けたアドベンチャートラベルの情報発信や商談会等を実施。	観光局	0	12,285	12,285	0.3	0.0	0.3	14,661
0305	2(6)A	アウトドア活動振興環境整備事業費	・アウトドア活動の振興を図るため、北海道アウトドア資格制度の運営を通じ、アウトドア活動を支える基盤づくりを推進。	観光局	0	368	239	0.3	0.0	0.3	2,744
0306	2(6)A	観光客夜間消費拡大促進事業費(創生交付金)	・来道観光客の観光消費の拡大を図るため、夜間の観光資源の掘り起こしのためのワークショップなどを実施。	観光局	0	6,132	3066	0.3	0.0	0.3	8,508
0307	2(6)A	インバウンド対応ビジネスモデル形成事業費(創生交付金)	・インバウンド向け滞在モデルプランの策定・検証を通じた「稼ぐ観光」のビジネスモデル確立を支援。	観光局	0	88,230	44,115	0.3	0.0	0.3	90,606
0308	2(6)A	広域観光周遊促進事業費	・地域偏在の解消等を図るため、観光地を周遊するための二次交通の利便性向上などに取組、魅力ある観光地づくりを推進。	観光局	0	134,850	134,850	0.8	0.0	0.8	141,186
0309	2(6)A	サイクルツーリズム推進事業(創生交付金)	・本道におけるサイクルツーリズムを推進するため、輸送方法の検証や周遊拠点の整備支援等を実施。	観光局	0	13,993	6,997	0.3	0.0	0.3	16,369
0310	2(6)A	地域の新たな滞在型観光創出事業費(創生交付金)	・地域の新たな滞在型観光の需要創出を図るため、地域の特色ある観光資源と小規模宿泊施設とのマッチングなどを実施。	観光局	0	2,208	1,104	0.5	0.0	0.5	6,168
0311	2(6)A	広域連携DMOとしての北海道インバウンド戦略立案事業費(一部創生交付金)	・重点市場・対象に関するマーケティング調査を実施し、整理したデータを活用して北海道インバウンド戦略を策定。	観光局	0	246,152	191,826	0.8	0.0	0.8	252,488
0312	2(6)A	観光誘致推進事業費(受入体制整備)	・本道の観光振興を図るため、(公社)北海道観光振興機構が実施する各種宣伝事業等に対し支援。	観光局	0	36,493	36,493	0.3	0.0	0.3	38,869

0313	2(6)A	北海道さっぽろ「食と観光」情報館運営費	・札幌駅に札幌市と共同で設置している「北海道さっぽろ『食と観光』情報館」を運営。	観光局	0	40,218	26,527	0.3	0.0	0.3	42,594
0314	2(6)A	ユニバーサルツーリズム推進事業費(創生交付金)	・観光ニーズの多様化に対応するため、バリアフリー観光商品の開発や食のユニバーサル化に向けたワークショップなどを実施。	観光局	0	20,000	10,000	0.3	0.0	0.3	22,376
0315	2(6)A	温泉ツーリズム推進事業(創生交付金)	・本道の代表的な観光資源である「温泉」をテーマに情報発信ツールの整備や旅行商品造成などの取組を実施。	観光局	0	8,000	4,000	0.3	0.0	0.3	10,376
0316	2(6)A	北海道ATガイド認証制度検討事業(創生交付金)	・欧米富裕層の間で広がっているアドベンチャーツーリズムの受入を推進するため、アドベンチャートラベルガイドの認証制度について検討を実施。	観光局	0	2,675	1,338	0.5	0.0	0.5	6,635
0317	2(6)A	観光案内所バリアフリー機能強化事業	・新千歳空港の観光案内所にバリアフリーに関する窓口を設置し来道観光客の利便性向上を図る。	観光局	0	12,171	12,171	0.3	0.0	0.3	14,547
0318	2(6)A	住宅宿泊事業法関連事業費	・民泊を活用した誘客拡大と民泊によるトラブルの解消を目的とする「住宅宿泊事業法」を適正に執行する。	観光局	0	17,538	17,538	4.0	1.4	5.4	60,306
0319	2(6)A	観光統計調査事業	・本道における観光入込客数等を調査し、道の観光振興施策推進の基礎資料とするほか、市町村や観光事業者等の活用に供する。	観光局	0	6,523	6,523	0.5	0.0	0.5	10,483
0320	2(6)A	観光人材マッチング支援事業費(地プロ)	・人材の定着及び人材不足に関する課題を解決するため、観光業界での就職を希望する求職者と雇用者のマッチングや就職の動機付けとなるセミナーを実施する。	観光局	0	33,687	6,738	0.5	0.0	0.5	37,647
0321	2(6)A	観光人材育成事業費(創生交付金)	・インバウンドの受入体制を整備するため、観光関連事業者や通訳案内士等の育成を実施。	観光局	0	38,072	21,361	0.3	0.0	0.3	40,448
0322	2(6)A	外国人観光客の受入体制整備に関する事務	・急増する外国人観光客に対応するため、受入体制の整備を図る。(Wi-Fi、キャッシュレス、医療、レンタカー、災害時対応等)	観光局	0	0	0	0.3	0.0	0.3	2,376
0323	2(6)A	地域イベントに関する事務	・地域イベントに係る後援名義依頼、役員就任、行事への出席、キャンペーン支援	観光局	0	0	0	0.3	0.0	0.3	2,376
0324	2(6)A	その他内部管理事務	・予算決算、文書管理、議会対応、職員の人事・服務・給与・福利厚生、物品管理、広報広聴、陳情要望、政策評価、企画立案など、局内の内部管理に関する事務全般	観光局	0	0	0	4.0	0.0	4.0	31,680
0325	2(6)A	観光局総合調整業務	・観光局の各事務事業が円滑に執行されるよう管理する。	観光局	0	0	0	3.0	0.0	3.0	23,760
計					0	999,980	778,229	26.1	1.4	27.5	

令和2年度 基本評価調書

施策名	滞在交流型観光地づくりの推進	施策コード	05 - 04
-----	----------------	-------	---------

Do & Check 施策評価 一次政策評価結果(各部局等による評価)

5 一次政策評価結果と翌年度に向けた対応方針等

(1)成果指標の分析

政策体系	達成度合の集計					判定	成果指標の分析
	A 100%以上	B 90%以上 100%未満	C 80%以上 90%未満	D 80%未満	- 算定不可		
2(6)A	1	1	2			C指標あり	《観光消費額(道内)》 消費額増加のための取組の成果が現れていると考えられる。 《観光消費額(道外)》 前回調査から微減となったが、概ね順調に推移していると考えられる。 《観光消費額(外国人)》 前回調査から減少しており、中国人観光客による爆買いの収束などが一要因であると考えられる。 《宿泊延べ数》 胆振東部地震の風評被害などにより、数字が伸び悩んだと考えられる。
						-	
						-	
計	1	1	2	0	0	C指標あり	

(2)取組の分析

基準1 (施策の推進に当たり対応すべきもの)		対応している (○→対応している) (△→コロナの影響)	理由
1	計画した取組を着実に進め、かつ社会情勢や道民の要請等を踏まえた課題等に対応しているか	△	新型コロナウイルス感染症の影響等により、当初予定していたワークショップなどを実施できなかった。
基準2~4 (施策の推進に当たり取組が認められる)		取組がある (○あり→取組がある)	取組があるとする理由(新型コロナウイルス感染症の影響で取組がない場合は理由を記載)
2	施策の推進に当たり、国等に要望・提案を行い、実現に向けて進捗しているか	○	施策の推進に必要な制度緩和や財政支援強化について、庁内各部と連携・調整し、国に要望・提案している。
3	道民からのニーズを的確に把握し、施策推進に役立てているか	○	「北海道来訪者満足度調査」などにおいて道民ニーズを把握しており、施策の執行や検討に反映している。
4	施策の推進に当たり、他の施策・部局との連携や地域・民間との連携・協働による成果を確認できるか	○	効果的な施策の推進に向け、地域・民間や庁内各部と連携した事業を実施しており、定期的に意見交換等を行っている。
判定	・基準1が「○」で、かつ基準2~4のうち1つ以上に「○」がある→ a ・基準1が「○か△」ではない、又は基準1は「○か△」だが基準2~4に1つも「○」がない→ b ・基準1が「△」で、かつ基準2~4のうち1つ以上に「○」がある→ c		C

Check 施策評価・事務事業評価 二次政策評価結果(知事による評価)

6 二次政策評価結果(知事による評価)

<意見区分： 施策目標の達成状況・事務事業の有効性>

	対応方針 番号	事務事業 整理番号	事務事業名	付加意見
施策 事務事業				

<事務事業評価 意見区分： 前年度評価結果への対応など>

	対応方針 番号	事務事業 整理番号	事務事業名	付加意見
事務事業	I	0312	観光誘致推進事業費(受入体制整備)	道の補助金等が団体の当期支出の2分の1を下回るよう道補助金等以外の財源の確保手段を模索するなど、収支改善策を検討し団体の自立化の推進に努めること

令和2年度 基本評価調書

施策名	滞在交流型観光地づくりの推進	施策コード	05 - 04
-----	----------------	-------	---------

Action 施策・事務事業評価

7 評価結果の反映

(1) 一次政策評価結果への対応

対応方針 番号	対応	事務事業
①	<新たな取組等> WEB会議等、コロナ禍においても実施可能な手法をとることで、効果的な事業執行に努める。	改善：観光客夜間消費拡大促進事業費(創生交付金)
②	<新たな取組等> 新型コロナウイルス感染症の長期化に伴い、インバウンドの回復にはしばらく時間を要することから、本道の観光需要の回復に向けては、道内、国内、海外の順に段階的な回復を目指す。また、感染症リスクの軽減、その影響の緩和といった課題を踏まえつつ、自然環境や食など地域資源を活かした観光地づくりといった従来の取組に加え、ワーケーションやアドベンチャートラベルなどの新たな取組を進めていく。	拡充：アドベンチャートラベルワールドサミット開催推進費 拡充：地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業費 統合：アドベンチャートラベル受入整備・ブランド向上事業費 統合：サイクルツーリズム推進事業(創生交付)

(2) 二次政策評価結果への対応(付加意見への対応状況)

<意見区分： 施策目標の達成状況・事務事業の有効性>

	対応方針 番号	事務事業 整理番号	事務事業名	各部署の対応(令和3年3月末時点)
施策 事務事業	I			

<事務事業評価 意見区分： 前年度評価結果への対応など>

	対応方針 番号	事務事業 整理番号	事務事業名	各部署の対応(令和3年3月末時点)
事務事業	I	0312	観光誘致推進事業費(受入体制整備)	新たな会員の獲得や収益事業の拡大など、組織体制強化に必要な自主財源の確保に向けた各取組を積極的に後押ししていく。
	II			

(3) 事務事業への反映状況

方向性	拡充	改善	縮小	統合	廃止	終了	合計
反映結果	3	11	1	2	1	3	21

次年度新規事業 (予定)
1

事務事業 整理番号	事務事業名	一次政策評価におけ る方向性(再掲)	次年度の方向性 (反映結果)
0301	アドベンチャートラベルワールドサミット開催推進費	改善	拡充
0302	民族共生象徴空間誘客促進・地域連携事業費(創生交付金)	改善	終了
0303	地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業費	改善	拡充
0304	アドベンチャートラベル受入整備・ブランド向上事業費	改善	統合
0305	アウトドア活動振興環境整備事業費	改善	改善
0306	観光客夜間消費拡大促進事業費(創生交付金)	改善	改善
0307	インバウンド対応ビジネスモデル形成事業費(創生交付金)	改善	終了
0308	広域観光周遊促進事業費	改善	拡充
0309	サイクルツーリズム推進事業(創生交付金)	改善	統合
0310	地域の新たな滞在型観光創出事業費(創生交付金)	改善	改善
0311	広域連携DMOとしての北海道インバウンド戦略立案事業費(一部創生交付金)	改善	縮小
0312	観光誘致推進事業費(受入体制整備)	改善	改善
0313	北海道さっぽろ「食と観光」情報館運営費	改善	改善
0314	ユニバーサルツーリズム推進事業費(創生交付金)	改善	改善
0315	温泉ツーリズム推進事業(創生交付金)	改善	廃止
0316	北海道ATガイド認証制度検討事業(創生交付金)	改善	改善
0317	観光案内所バリアフリー機能強化事業	改善	終了
0318	住宅宿泊事業法関連事業費	改善	改善
0319	観光統計調査事業	改善	改善
0320	観光人材マッチング支援事業費(地プロ)	改善	改善
0321	観光人材育成事業費(創生交付金)	改善	改善